

CASBEE-建築(新築)2016年版
 株式会社ヤマコー 宇治田原工場増築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v1.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体				
Q 建築物の環境品質										2.7
Q1 室内環境										2.2
1 音環境										2.2
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
2 温熱環境										1.6
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能										
3 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										2.4
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 昼光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気質環境										3.2
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量		建築基準法を満たす換気量の1.4倍以上								
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視										
2 喫煙の制御										
Q2 サービス性能										3.2
1 機能性										2.9
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性		一人当たりの執務スペースが12㎡以上								
2 高度情報通信設備対応										
3 バリアフリー計画										
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観		作業場の天井高2.9m以上。執務者が十分な屋外の情報を得られる。								
2 リフレッシュスペース										
3 内装計画										
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計										
2 維持管理用機能の確保										
2 耐用性・信頼性										2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										
2 免震・制震・制振性能										
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
6 主要設備機器の更新必要間隔										
2.4 信頼性										
1 空調・換気設備										
2 給排水・衛生設備										
3 電気設備										
4 機械・配管支持方法										
5 通信・情報設備										

3 対応性・更新性			4.0	0.30		4.0
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30		
1	階高のゆとり	階高3.9m以上	5.0	0.60		
2	空間の形状・自由さ	壁比率が0.1以上	4.0	0.40		
3.2 荷重のゆとり		床荷重4500N/m2以上	5.0	0.30		
3.3 設備の更新性			3.0	0.40		
1	空調配管の更新性		3.0	0.20		
2	給排水管の更新性		3.0	0.20		
3	電気配線の更新性		3.0	0.10		
4	通信配線の更新性		3.0	0.10		
5	設備機器の更新性		3.0	0.20		
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40		2.7
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30		3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40		3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30		2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			1.0	0.50		
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50		
LR 建築物の環境負荷低減性						2.8
LR1 エネルギー				0.40		3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制				-		1.0
2 自然エネルギー利用				-		-
3 設備システムの高効率化				-		-
4 効率的運用			3.0	1.00		3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00		
4.1	モニタリング		3.0	0.50		
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		
集合住宅の評価				-		
4.1	モニタリング			-		
4.2	運用管理体制			-		
LR2 資源・マテリアル				0.30		2.8
1 水資源保護			3.0	0.20		3.0
1.1 節水			3.0	0.40		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60		2.8
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10		
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20		
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20		
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20		3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30		
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70		
1	消火剤		-	-		
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	1.00		
3	冷媒		-	-		
LR3 敷地外環境			-	0.30		2.7
1 地球温暖化への配慮			-	-		-
2 地域環境への配慮			2.5	0.50		2.5
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25		
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50		
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25		
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		
3	交通負荷抑制		3.0	0.25		
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25		
3 周辺環境への配慮			3.0	0.50		3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		
1	騒音		3.0	0.33		
2	振動		3.0	0.33		
3	悪臭		3.0	0.33		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40		
1	風害の抑制		3.0	0.70		
2	砂塵の抑制			-		
3	日照障害の抑制		3.0	0.30		
3.3 光害の抑制			3.0	0.20		
1	屋外照明及び屋内照明のうらみに漏れる光への対策		3.0	0.70		
2	屋外の建物外壁による反射光(glare)への対策		3.0	0.30		